

2008 冬号 (第12号)

# 四国産業保安情報

## ■巻頭言

- ①年頭所感 (原子力安全・保安院長 薦田 康久) ..... 1
- ②年頭所感 (中国四国産業保安監督部四国支部長 折田 憲一) ..... 3

## ■行事報告

- ①平成19年度四国地区ダム水路主任技術者会議開催結果 ..... 4
- ②「高松官庁めぐり」実施結果 ..... 5
- ③平成19年度全国鉱山保安表彰式開催結果 ..... 6
- ④平成19年度高圧ガス保安原子力安全・保安院長表彰式開催結果 ..... 7
- ⑤平成19年度ガス保安功労者原子力安全・保安院長表彰式開催結果 ..... 9

## ■コラム

- ・ちょっと一服「里山でリフレッシュ」 ..... 11

## ■組織

- ①中国四国産業保安監督部四国支部職員人事異動 ..... 13
- ②中国四国産業保安監督部四国支部職員 (平成20年1月1日現在) ..... 13

## ■行事予定 平成20年1～3月行事予定 ..... 13

## ■災害・事故情報

- ①平成19年四国管内電気事故発生件数 (10～12月) ..... 14
- ②平成19年四国管内事故発生件数 (1～11月) ..... 14
- ③平成19年四国管内鉱種別鉱山災害発生状況 (1～10月) ..... 14

## ■編集後記 ..... 15

## ■災害・事故等発生時の緊急連絡先 ..... 15

中国四国産業保安監督部四国支部発行

## 巻頭言

### 平成20年経済産業省原子力安全・保安院長年頭所感

原子力安全・保安院長 薦田 康久



平成20年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

原子力安全・保安院は、今年も原子力安全及び産業保安の確保・向上とそれを通じた国民の安全確保に全力で取り組むとともに、電力会社を始めとする各事業者の自立的・組織的な「安全文化」の醸成を図ってまいります。そして、国民の「安全」の確保に終始することなく、これまで以上に前面に立ち、国民の「安心」も常に意識して行政を進めてまいります。

昨年は、原子力安全・保安院にとって、多くの課題が浮き彫りになった年でした。

昨年7月16日に起きた新潟県中越沖地震において、柏崎刈羽原子力発電所では、原子炉は安全に停止したものの、変圧器の火災や微量の放射性物質の漏えいが生じるなど、立地地域はじめ、国民の皆様には、大変ご心配をおかけいたしました。現在、地震において明らかになった種々の課題について「中越沖地震における原子力施設に関する調査・対策委員会」に諮り、学識経験者の意見も踏まえながら、徹底した調査・検討を行っております。昨年12月には、自衛消防体制や情報連絡体制・情報提供等の強化策について報告書原案を取りまとめました。柏崎刈羽原子力発電所の設備の健全性については、電気事業者の点検結果を厳格に確認しているところです。また、原子力発電所の耐震安全性については、現在、電気事業者に対し、平成18年9月に改定された新耐震審査指針に基づく耐震安全性の再評価を求めており、本年度末までにすべての電気事業者から、中越沖地震から得られる知見を適切に反映した評価の中間報告がなされることとなっております。原子力安全・保安院としては、柏崎刈羽原子力発電所を始めとする各原子力施設の耐震安全性について厳正に確認してまいります。

また、一昨年10月末以降、電気事業者によるデータ改ざん、必要な手続の不備等の問題が明らかとなり、同年11月30日には全電気事業者に対して、過去に遡り不適切な問題がなかったかを総点検するように指示したところ、臨界事故隠ぺいのような重大な事案等も明らかになりました。

これを受けて原子力安全・保安院では、電気事業者の再発防止策を精査し、今後の発電設備の安全確保の向上につなげるための30項目の対応策を昨年4月に策定して公表しました。その中には、行政処分としての保安規定の変更命

令や、事故・トラブル等の国際的な情報共有などが含まれ、原子力安全・保安院では、現在、この行動計画に基づいて、再発防止策に努めているところです。

この他、従来から行ってきております、原子力安全及び産業保安に係る規制の適切な見直し、着実な執行を図ってまいります。

原子力安全の分野では、まず原子力発電所の高経年化対策が、安心にも関わる重要な課題と考えております。立地地域の皆様からも国においてきちんと対応して欲しいという御要望をいただいているところです。

原子力安全・保安院としても、発電設備の総点検結果も踏まえ、保全プログラムを充実させ、一律の検査からプラント毎の特性に応じたきめ細かい検査に移行することで、より確実に安全を担保できるよう努めてまいります。

また、原子力発電に係る事故・トラブルの未然防止という観点から、事故・トラブル情報の国際的な公開・共有の促進も進めております。制御棒引き抜け等の事象については、国際原子力規制者会合等で報告を行うとともに、10月に我が国において国際ワークショップを開催し国際的な情報発信を行いました。また、中越沖地震についてはIAEA調査団を受け入れるとともに、IAEA上級規制者会合等において報告をいたしました。本年もIAEAや各国と積極的に情報交換・情報共有に努め、国際的にも原子力発電所の安全性向上に寄与してまいります。

さらに、本年は、六ヶ所再処理施設の本格稼働や高速増殖炉もんじゅの運転再開、放射性廃棄物の余裕深度処分の準備の本格化も計画されておりますが、原子力安全・保安院としては、これらの施設についても厳格に安全性を確認してまいります。

産業保安分野においては、昨年1月の北見市でのガス中毒事故、12月の茨城県神栖市での石油化学プラント火災事故など、痛ましい事故が発生いたしました。

これらの事故を受け、各事業者に対して再発防止の徹底等の指導を行い、また、関係法令の改正を行うなど安全確保に係る対策を講じました。引き続き、適切かつ実効的な制度運用を心がけてまいります。

また、事業者の自主的な保安による安全確保を基本とする産業保安分野においては、コンプライアンスが不可欠です。このため、事業者において安全文化を向上させるような規制のあり方についても検討してまいります。

昨今、国民の皆様から安全・安心に係る御要望を数多くいただいております。我々も今回の新潟県中越沖地震での経験や、産業保安に係る事故での経験を通して、安全・安心の確保を国民の皆様が強く望んでおられることを痛感しております。この真摯な想いにどのように応えていくのかが、これからの原子力安全・保安院にとっての大きな課題と考えます。本年も、国民の皆様の期待を反映した原子力安全・保安行政の実現に努めていきたいと考えています。

最後に、皆様の御健勝と御発展を祈念し、私の新年の挨拶とさせていただきます。

## 年頭所感

中国四国産業保安監督部四国支部長 折田 憲一



平成20年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

本年は、産業保安監督部が発足してから4年目に入りますが、監督部の真価が問われる年でもあると考えています。これまでの3年間の活動状況を評価し、我々の使命である、国民生活や産業活動に欠かせないエネルギー施設や産業活動の安全確保のために、より一層己を律して職務に当たらなければならないものと、心を新たにしているところです。

さて、昨年、1月に発生した北海道北見市のガス中毒事故に始まり、電気保安協会の点検不実施や製紙会社のばい煙排出データ改ざん等が次々と明るみになり、産業保安行政に携わる我々にとりまして不本意な一年であったと感じています。また、7月に発生した新潟県中越沖地震は、四国に住む私たちにとって身近な東南海・南海地震に対する防災対策の着実な推進を改めて惹起させる出来事でした。

ここ数年、あらゆる分野において会社や官公庁等での不祥事が発覚していく様を見ていると、日本は一体どうなっていくのかと暗鬱とした気持ちになられた方が、たくさんおられると思います。しかし、当然ながら周りはそういう人ばかりではありません。たとえば、電気、ガス、鉱山等の原子力安全・保安院長表彰を受賞された方々とお話しをしますと、自分の仕事に対する誇りや確固たるプロ意識が伝わってきます。そのような自負をもって真面目に産業保安の仕事をしている方は、他にも数多くいらっしゃると思います。産業保安以外の分野でもしかりです。日本はまだまだ捨てたものではないと思っています。

先日、ある講演会で、「一流の人は、後ろ姿が美しい。」と話されているのを聴きました。この言葉の言わんとする真意を未だによく理解できていないのですが、妙に印象深い言葉でした。と同時に、「武士道（新渡戸稲造著、奈良本辰也訳）」の「武士道は一つの独立した道徳の掟としては消滅するかもしれない。しかしその力はこの地上から消え去ることはない。その武勇と文徳の教訓は解体されるかもしれない。しかしその光と榮譽はその廃墟を超えて蘇生するにちがいない。あの象徴たる桜の花のように、四方の風に吹かれたあと、人生を豊かにする芳香を運んで人間を祝福しつづけることだろう。何世代か後に、武士道の習慣が葬り去られ、その名が忘れ去られるときが来るとしても、「路辺に立ちて眺めやれば」、その香りは遠く離れた、見えない丘から漂ってくることだろう。」の一節が連想されてきました。

昨今、コンプライアンス遵守が紙面等を賑わしていますが、私は、それ以前のたしなみとして、誇りとプロ意識をもって仕事を行うのであれば、その人の背中から、自然と凛とした香りがほのかに漂ってくるものと信じています。一人でも多くの人から、醸し出されてくるその香りで職場を満たしていき、災害事故や不正を起こさせない職場環境を作って頂ければ幸いです。

最後になりましたが、今年一年、皆様のご多幸と、ご安全を心から祈念いたします。年頭の挨拶とさせていただきます。